

「 防災に关心を 」

宮城県 岩沼市立岩沼中学校 2年 柿崎 悠介

「雨が強くなってきたから、そろそろ避難しようか」と言って移動するのは、人ではなく車です。

私の家では、台風などで雨が強くなると、このような話が必ず始まります。そして、家の隣にある少し高台の公園へと車を移動させるのです。それは、一緒に住んでいる祖母が、私が産まれるよりずっと昔に、家の前が冠水し、車が水につかってしまった経験があるからなのです。私はその話をいつも聞いていたので、車を移動させることに違和感を覚えることはありません。大雨は、さまざまな災害を引き起こす、いわば引き金のようなものです。

私は、7年前の2018年に広島県で起きた土砂災害が忘れられません。土石流が発生した結果、死者は200名以上、多くの家屋が流されるなどの甚大な被害が生じました。このニュースを見たとき、私は、「大雨はこんなにも大きな被害を引き起こすのか」と驚き、言葉を失いました。そして、私に二つの疑問が生まれます。一つは、「前日から雨が降っていて、避難はいつでもできただけで、どうして避難せず死者は増えたのか」で、もう一つは、「もしかして自分も知らないだけで自分の周りにも危ないところが実はあるのではないか」ということです。

そこで、私の住んでいる岩沼市のハザードマップを確認してみました。すると、いつも利用している道や施設が、実は危険なエリアに入っていることに気づかされたのです。私の住む住宅地のそれほど遠くないところも土砂災害の特別警戒区域になっていることを知りました。

つまり、知らず知らずの間に、危険は近くに潜んでいたということです。にもかかわらず、このことは友人の間で話題になりません。今回知ったこのことを周りの人々に伝え、災害対策を強めていきたいです。

せっかくなので、この機会に、自分の家の周りはどうかと更に調べてみることにしました。家の周りを気をつけながら散歩してみると、いつもは大して気にならない川や山が、普段と違う目線だからか、よく見えるようになりました。「もし大雨が降ったら」とか「もし土砂が流れてきたら」などとすると、様々な場所が牙を向かねないことを知ったのです。日々過ごしているからこそ、気づけない危険さもあるのだと考えます。また、避難所など、もし逃げるときはどこを通って行くのか、家の外にいる場合はどうすればよいのかなど、あらかじめ確認することは大切なことだと考えます。いざというときに困惑してしまっては、助かる命も助からなくなるかもしれません。自分の住んでいる場所には何があるのか、どういう危険があるのかを知るだけでも全然違うと思います。

そして、「知ること」も確かに大切ですが、ただ知るだけではなく、実際に行動してみることも大切ではないかと考えます。

私の弟は、この春に小学校に入学しました。小学校には徒歩で通学しないといけないため、一度弟と通学路を歩いてみたことがあります。通学する学校まで私はいつも10分から15分ほどかけて歩くのですが、弟と歩くと40分ほどもかかりました。私と弟では歩幅が違うこともあると思いますが、やはり歩き慣れていないことが大きかったのだと思っています。

歩き慣れているか、そうでないかは大きく異なります。歩き慣れていれば、スムーズに行けますが、迷いながら進むと大きく時間がかかってしまいます。

避難所まで、実際に雨の日や夜に歩いてみると、想像と違うこともあると思います。日頃から練習がてら歩いてみるのも必要かもしれません。

このように、身の回りには危険が潜んでいます。その危険から命を守る最大の近道は、知ろうとすること、そして行動することだと考えます。だから、今度大雨などで車を移動させることができれば、家族に「私たちも早めに避難しよう」と声をかけたいと思います。

令和7年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」 作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「前も大丈夫だったから今回も大丈夫」「ここまで来ないはず」といった油断が多くあったから広島の土砂災害では多数の死者が出てしまったのだと思います。自分だけでなく、他の家人にも声をかけて、すぐに避難することが大切だと思います。「避難」というのは、命を守るために大切な行動です。少しでも危険だと感じたら、避難する「逃げ時」を逃さないことも大切なことだと理解しています。

自然災害の発生を防ぐことはできません。だからこそ一人ひとりが防災について関心を持ち、防災について知ろうとする気持ちを持つことが重要だと考えます。私はそれらを大切にして生きていこうと思います。